

No.2 多発しているトラック - 交通事故（道路）の死亡災害事例（2019年）

2019 年 生 月	発 生 時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故 の型 コード	労働 者 規 模
7	20 ～ 22	トンネル内で社用車が故障して本線で停車した際、大型トラックに追突され、車の助手席に座っていた労働者が死亡した。被災者らは、日帰り出張した帰りで、社用車には2名が乗車。当初は被災者が運転していたが、停車後に運転を交代するために助手席に移動していた。同乗者は追突時に車外へ出ておりけがはなかった。	10102	221	17	10 ～ 29
5	14 ～ 16	顧客先に向かうためトラックを運転して片側1車線の国道を走行中、中央線をはみ出し、対向車線を走行してきた大型トラックと正面衝突したもの。	10109	221	17	1～ 9
9	10 ～ 12	被災者は、自動車道トンネル内を2tトラックで走行中、運転操作を誤り、センターラインをはみ出してしまい、13tトラックと正面衝突したもの。被災者は、病院に搬送されたが、搬送先で死亡したもの。	10602	221	17	10 ～ 29
10	12 ～ 14	トラック（4トン、箱車）を運転して、ホテル等で回収したリネン類を一時保管庫に運んでいた被災者が、工事による片側通行のために停車していた大型トラックに追突したもの。	11703	221	17	100 ～ 299
7	6 ～ 8	ダンプトラックで走行中、道路右側のガードレールを突き破り約10メートル下に転落。その後、医療機関に搬送されたが、後日死亡した。	20202	221	17	1～ 9
	10	被災者は、規制されていない道路上において、道路脇の現場を写真撮影中、道路上を後退で走行してきた貨物自動車（4トンダンプ）				30

12	～	に轢かれ、被災9日後に死亡した。なお、貨物自動車は、作業位置	30106	221	17	～
12		(A) から後方約100メートル離れた作業位置(B)へ移動するために後退したもの。				49
5	～	10 資材調達のためにダンプトラック(最大積載量2トン)を運転して	30106	221	17	50
12		いた被災者がセンターラインをはみ出し、対向車線を走行中のト				～
		12 ラッククレーンと正面衝突したもの。				99
3	～	畑の造成現場で出た木くずや杉枝等の廃材を片道20分程度離れた	30109	221	17	1～
16		事業場資材置き場に2tダンプトラックで向かった被災者が帰って				9
		こないことから同僚が確認しに向かったところ、同資材置き場から				
		100m程度手前の農道から私道へ入るカーブの路肩の斜面約15				
		16 m下にダンプトラックが転落し被災者が下敷きになっているのを確				
		認した。被災者は現場に到着した医師により死亡が確認されたも				
		の。				
11	8	被災者が4tダンプカーを運転していたところ、橋の欄干に追突	30199	221	17	1～
	～	し、ダンプカーごと橋から転落し死亡した。				9
	10					
11	8	自動車道下り線片側2車線のうち、1車線(追越車線)を規制し、	30199	221	17	100
	～	植栽・ガードレールのメンテナンス作業を行っていたところ、カ				～
	10	ラーコーンで区切られた規制範囲内に進入したトラックに被災者が				299
		はねられたもの。被災者は病院に搬送されたが死亡が確認された。				
1	20	建設現場からダンプトラックを運転して会社事務所に帰社途中、片	30199	221	17	1～
	～	側3車線の高速道路を走行中、前方車を追い越そうと車線変更し、				9
	22	追い抜いて第一走行車線に戻った直後、側壁に接触し、その弾みで				
		右側の中央分離帯に衝突、助手席の同乗者がフロントガラスを破っ				
		て車外に放り出され、全身を強く打ち死亡、ダンプトラックの運転				
		者も負傷した。				
8		被災者は、着工予定の現場の見積もりを行うため、会社所有のト				
		ラックを被災者自身が運転して高速道路を走行していた。その途				

7	7 10	～	中、被災者が運転するトラックが道路の左側にはみ出し、法面に乗り上げた後、橋脚に衝突した。被災者は、病院に搬送されるも全身を強く打ち、およそ2時間後に死亡が確認された。	30201	221	17	1～ 9
1	14 16	～	被災者が現場乗入口境界際の溝上で当該溝上のグレーチングの養生をしていたとき、合材を積んで待機していた10tダンプトラックが乗入口から歩道に出ようとしたところ、当該ダンプトラック左前にいた被災者を轢いた。被災者は緊急搬送されることなく即死であった。	30201	221	17	10 ～ 29
12	14 16	～	住宅ガレージの解体工事現場で発生した残材を搬出するため、現場から4トントラックに残材を積み込んで自社の資材置場に運転して、ガードレールに衝突し、のり面に転落している状態のトラック車内で発見された。	30209	221	17	1～ 9
9	8 10	～	車道のマンホールを開けて行う工事のため、片側交互通行で工事を行っていたところ、走行中のタンクローリーが停車していたトラックに衝突し、トラックが押し出され、マンホールの中のケーブルの張替作業を行っていた労働者に衝突した。被災者は全身を打ち死亡した。	30301	221	17	1～ 9
5	14 16	～	片側1車線（制限速度60km）の道路上において、交通誘導員1人を配置し、被災者は高所作業車を使い、道路脇の歩道から作業装置を車道に向け、路側帯上の高さ5.7mにある敷設した光通信線を高さ約4.3mのバケット上で車道上の左端にまたがり架設作業を行っていたところ、車道内を直進してきた空荷の海上コンテナを積載した大型トレーラー（車高約4m）のコンテナ隅と先端ブームが接触し投げ出され、脳挫傷で死亡した。	30301	221	17	10 ～ 29
11	12 14	～	交通信号制御機点検業務の点検写真撮影を行うため、交差点の横断歩道を歩行中、交差点に右折して進入してきた大型トラックと接触し死亡したもの。歩行者、トラックともに青信号で交差点に進入し	30309	221	17	10 ～ 29

		たものである。				
12	22 ～ 24	4 トントラックを運転し、客先に向かうため県道走行中、何らかの理由により中央分離帯に接触後対向車線を通り抜け、店舗の看板のポールに激突し、出血性ショックにより死亡した。	40301	221	17	50 ～ 99
11	10 ～ 12	被災者がトラックに乗り、高速道路を運転していたところ、渋滞していた最後尾の車両に追突し、被災者が死亡したもの。	40301	221	17	30 ～ 49
11	2 ～ 4	被災者が、トラック（最大積載量3トン）を運転して商品を配送するために高速道路を走行中、故障により路肩に停車していた大型トラックの後部右脇に衝突し、トラックが横転した。	40301	221	17	30 ～ 49
10	10 ～ 12	配送先から事業場へ帰る途中、高速道路下り線の追い越し車線に停車していた大型トラックと衝突した。	40301	221	17	50 ～ 99
10	4 ～ 6	貨物自動車で自動車道下り線の追い越し車線を走行中、前方で横転・停止していたトレーラーに衝突し、右側に弾んで追い越し車線の右側に接触した後、今度は左側に弾んで走行車線の左側に衝突して停止し、貨物自動車の運転者が死亡した。（なお、被災者の1台前を走行していた別の貨物自動車についても、同様にトレーラーに衝突して、運転者が死亡した。）	40301	221	17	50 ～ 99
10	4 ～ 6	被災者は、最大積載量13.8tの貨物自動車を用い、貨物を運送していたところ、自動車道下り線において、前方で横転したトレーラーに衝突し、死亡した。玉突き事故にはならなかったが、被災者の隣からトレーラーに衝突した中型トラックの運転手も死亡し、トレーラーの運転手は軽傷を負った。	40301	221	17	50 ～ 99
10	14 ～ 16	被災者はトレーラーを運転し片側1車線の道路を走行していたところ、左カーブを曲がり切れず対向車線にはみ出して横転し、対向してきた大型トラックと正面衝突した。被災者は頭を強く打ち死亡し、大型トラックの運転手は右足骨折の重傷を負った。	40301	221	17	10 ～ 29

10	2 ～ 4	中型トラックで高速道路を走行中、パーキングエリアに入るため流入路に進入したところで流入路の右側に停車していた大型トラックに追突し、追突された大型トラックがさらに前方に停車していたセミトレーラーに追突した。	40301	221	17	50 ～ 99
9	2 ～ 4	自動車道上り線で、A社のトラックがパンクのため停車していたところ、B社のトラックが追突し、さらに、そこへ被災者が運転するC社のトラックが追突したものの。被災者は頭を強く打って死亡した。他2台の運転手のうち、A社の運転手に怪我はなく、B社の運転手は軽傷を負った。	40301	221	17	10 ～ 29
9	0 ～ 2	被災者がタンクローリーにて道路を運転中、カーブを曲がり切れずに道路左側のコンクリートの擁壁に衝突したものの。	40301	221	17	10 ～ 29
9	12 ～ 14	国道をトラックで走行中、渋滞中の最後尾のトレーラーに追突し、その勢いで3台の玉突き事故となり、被災者は胸部を圧迫され、同日死亡したものの。	40301	221	17	30 ～ 49
9	10 ～ 12	線路（上り線側）沿いの一方通行の市道を走行してきた大型トラック（13.2t）が、市道から踏切を右折しようとして切り返し、踏切内で立ち往生している際、列車がトラック側面に衝突し、トラックは大破炎上、列車は先頭車両等が脱線した。この衝突で、トラックを運転していた労働者が車外に放出され死亡、列車の運転士及び車掌が負傷した。また、当該列車の乗客30名が負傷した。	40301	221	17	1～ 9
9	8 ～ 10	市道を走行中にトラック前輪のバーストにより、運転が制御できなくなり、乗用車5台と歩行者に接触した。接触した結果、道路沿いの石屋川にガードレールを突き破って転落した。	40301	221	17	10 ～ 29
9	0 ～ 2	道路（片側2車線道路の左側）をトラックで走行中、左ガードレールに接触し側道にそれ、道路沿いにある店舗入り口付近に衝突し、外傷性出血性ショックにより死亡したものの。	40301	221	17	10 ～ 29

8	10 ～ 12	被災者が7トン冷蔵用トラックを運転中、中央分離帯を乗り越え、横転して対向車線の軽ワゴン車と軽自動車を巻き込み、ガードレールに衝突したもの。	40301	221	17	10 ～ 29
8	6 ～ 8	トラックを運転中、赤信号で止まっていたトラックに追突した。	40301	221	17	10 ～ 29
8	0 ～ 2	会社で点呼後、10tトラックを運転し、荷（空ドラム缶）配送先に向けて出発したが、災害発生場所のバイパス出口において、分岐部のクッションドラムや標識柱に接触、横転し、胸部等を強打して死亡した。	40301	221	17	1～ 9
7	2 ～ 4	夜間作業の道路舗装工事に使用する合材をダンプトラック（10t）で建設工事現場まで3回ほど運搬し、運搬作業終了後、自社に帰るため、災害発生現場の県道を走行中、進行方向左側の花壇に接触した後、右側の民家のブロック塀に衝突した。（推定）ダンプトラックを運転していた被災者は、外傷性ショック等により死亡した。	40301	221	17	10 ～ 29
7	6 ～ 8	貨物自動車で市道を走行中、走行車線の左側縁石に接触し、右側に弾んで対向車線の貨物自動車と正面衝突し、左側に弾んで走行車線の左側縁石に再び接触し、右側に弾んで対向車線の貨物自動車（最初に衝突した貨物自動車の後ろを走っていた）の右側に衝突し、運転者が死亡した。	40301	221	17	10 ～ 29
7	2 ～ 4	被災者が運転する大型トラックほか複数台の車両が衝突、接触する交通事故が高速道路で発生したもの。上記事故現場で倒れていた被災者の死亡が確認された。	40301	221	17	50 ～ 99
6	4 ～ 6	タンクローリーにて液糖を運搬中、高速道路側壁に激突・横転した。	40301	221	17	10 ～ 29
		労働者1名がトラック（最大積載量14トン）を運転し、荷を搬送				

6	0 ～ 2	中、自動車道トンネル手前で、中央分離帯に接触し、反動でトンネル入口付近のコンクリート壁に激突し、死亡したものである。なお、トラックは同乗者が1名おり、負傷したが、労働者ではなかった。	40301	221	17	10 ～ 29
6	12 ～ 14	4 tトラックを運転し集荷のため走行中、道路補修工事現場に停められていた工事用車両に追突し、搬送先の病院で死亡した。また、トラックが追突して押し出された工事用車両により、工事現場の作業員2名が負傷した。	40301	221	17	1～ 9
6	0 ～ 2	自動車道上にて被災者の運転していたトラックが前方で横転していたトラックに衝突したものの。	40301	221	17	30 ～ 49
6	12 ～ 14	被災者がトラックの荷台に土砂を載せて公道を走行中に路肩から転落した。	40301	221	17	1～ 9
5	6 ～ 8	被災者は、会社から塩ビパイプを配送するため走行中に、トンネル南交差点の前で赤信号待ちのため停車していたトラックに衝突し、意識不明で病院に搬送された。後日搬送先の病院にて死亡した。	40301	221	17	10 ～ 29
4	4 ～ 6	被災者は、牛を積み込むために家畜車（最大積載量12.6 t）を運転して、国道を走行していたところ、交差点で信号待ちをしていたトレーラーに追突したものの。	40301	221	17	10 ～ 29
3	4 ～ 6	交差点において被災者の運転するトラックが走行する乗用車の側面に衝突した。トラックはその弾みで電柱に衝突し横転、被災者は後頭部の脳挫傷により死亡した。	40301	221	17	1～ 9
2	8 ～ 10	中型トラックを運転して国道を走行していたところ、国道を反対方面に向かって走行中の大型トラックと正面衝突した。	40301	221	17	1～ 9
	6	公道を走行していたトラックが交差点付近の凍結した路面でスリッ				50

2	～ 8	プし、そのままコンビニエンスストアの駐車場に侵入し、駐車場でトラックにタイヤチェーンの装着作業を行っていた被災者に激突した。	40301	221	17	～ 99
2	10 ～ 12	ダンプトラックで土砂を運搬中、道路左側の標識に衝突して横転。さらに横転したまま20メートル先の電柱に衝突して停車した。	40301	221	17	1～ 9
1	4 ～ 6	4トントラックを運転して県道を走行中、反対車線にはみ出したため、対向車の10トントラックに正面衝突した。	40301	221	17	30 ～ 49
1	12 ～ 14	国道にて、工事現場に鉄板を搬送中であったトレーラーが横転し、運転手が死亡したもの。	40301	221	17	10 ～ 29
1	0 ～ 2	片側1車線の道路を走行中、誤って対向車線にはみ出し、対向車と正面衝突したもの。対向車の運転手も重傷を負った。	40301	221	17	1～ 9
1	0 ～ 2	被災者は2トントラックを運転中、国道において、前方で信号待ちをしていたタンクローリー（LPガスを積載）に追突し、運転席に挟まれた結果、救助されたが意識不明の重体で、翌日の午前に死亡が確認された。	40301	221	17	50 ～ 99
7	6 ～ 8	市道の交差点付近において、被災者が港に帰るために東に向かってトレーラーを運転していたところ、対向車線を走行していたトレーラーが側壁に接触した拍子に対向車線にはみ出したため、トレーラー同士が正面衝突した。	40309	221	17	30 ～ 49
11	22 ～ 24	通路へ左折合流（信号のないT字路）しようとした被災者運転のトレーラーが、中央通路を直進してきたトレーラーの左側面に衝突。被災者車両の運転台右側が激しく損傷、ドアがめくれ上がった拍子に、被災者が運転席から道路へ転落、無人走行中の自車のタイヤに轢かれ死亡。被災者車両はコンテナの運搬中、直進車は空のトレー	50202	221	17	100 ～ 299

		ラーの牽引中であつた。				
9	14 ～ 16	被災者が運転する2 tトラックが、料金所を通過後、本線に入る手前のカーブで横転し、中央分離帯のガードレールに衝突すると同時に対抗車線の軽トラックにも接触した。被災者は全身を強く打ち死亡したもの。	60101	221	17	1～ 9
4	14 ～ 16	被災者は2トントラックを運転し、木材を運んでいたところ、下り坂の緩い左カーブを曲がり切れず、路外にはみだし横転し、全身を強く打って死亡した。	60201	221	17	1～ 9
8	16 ～ 18	被災者は車を運転中、対向車線側の路外へ逸脱して死亡した。	70101	221	17	10 ～ 29
10	6 ～ 8	高速を走行中に2 tトラックの右前輪がバーストした。片側2車線の左端に停車し下車した運転手は、トラックの前に立ちタイヤの状況確認をし上司宛に電話していたところ、後方より4 tトラックが追突した。追突された2 tトラックに押し出されて後方へ転倒した運転手は、2 tトラックの下敷きとなり、入院治療を行っていたが、後日脳挫傷により死亡した。	80109	221	17	100 ～ 299
5	14 ～ 16	新聞配達のためミニバイクで住宅街の見通しが悪く信号の無い交差点を通過するときにトラックと出合い頭に衝突し、頭部を負傷した。病院へ搬送されたが死亡した。	80205	221	17	10 ～ 29
2	14 ～ 16	新聞配達中、被災者運転のバイクが脇道から主道へ出たところ、走行中のトラックと衝突し、胸を強く打って死亡したもの。	80205	221	17	30 ～ 49
5	0 ～ 2	被災者は同僚が運転するトラックの助手席に乗り、自動車道の上り車線の走行車線を走行していたところ、何らかの原因により前方を走行中の大型トレーラーの後方に追突し、頭部などを強く打ち、同日外傷性ショックにより死亡したもの。	80209	221	17	1～ 9

7	10 ～ 12	ミニバイクで優先道路を走行中、信号機のない交差点において、一時停止を無視した7トントラックと衝突し、頭部を強打したもの。	90101	221	17	10 ～ 29
2	14 ～ 16	テレビ番組収録の作業下見のため、県道交差点を自転車で走行中、左側から走行してきたトラックに衝突されたもの。	110101	221	17	100 ～ 299
4	14 ～ 16	停車中のバキュームカーの後方で作業をしていた労働者が、後方から来た中型トラックに衝突され、バキュームカーとの間に挟まれ、病院に搬送されたが、約2時間後に死亡が確認されたもの。	150102	221	17	30 ～ 49
11	10 ～ 12	一般家庭ごみ（可燃物）の収集運搬で塵芥車（パッカー車）を被災者が運転して移動中、トンネル内の縁石やガードパイプ、壁などに衝突した（単独事故）。運転手の被災者は病院に搬送されたが、翌日の午後に多発外傷が原因で出血性ショックにより死亡した。トンネルは全長350m、幅9m、高さ6.5m。片側一車線で見通しのよい直線だった。	150103	221	17	50 ～ 99
11	10 ～ 12	収集作業員として、パッカー車の助手席に同乗していたところ、同車が緩やかな下り坂で右カーブした際、助手席のドアが開き、路上に落下して頭部を強打した。直後から意識不明の状態が続いていたが、後日死亡した。	150103	221	17	1～ 9
9	22 ～ 24	被災者は車道の左側車線側のマンホールを開けて清掃作業を行っていたところ、被災者の後方にあった作業車に20トンダンプが追突。その衝撃で被災者は玉突き状に後方作業車に巻き込まれて死亡したもの。	150109	221	17	10 ～ 29
6	6 ～ 8	被災者は、事業場の現場事務所から事務所まで、朝礼に出席するため、高速道路を利用していたところ、対向車に激突し、死亡したものの。	150109	221	17	10 ～ 29
		被災者は、警備先の埠頭の出入りゲートに詰める警備員。ゲートから出る車には、右折禁止・左折のみ可と指示しているが、右折しよ				

11	8 ～ 10	うする大型キャリアカーの社名入りの5台以上積載型（空荷）を見て、制止のためゲートを出て、手を振りながら、当該車両に左後方から接近したところ、突然左折した当該車両の左側方に巻き込まれて引きずられ、全身打撲で死亡した。	170201	221	17	30 ～ 49
9	10 ～ 12	高速道路の道路工事の交通誘導業務に就いていた被災者は、当該工事が終了したため、交通規制の撤去作業を行っていたところ、走行してきたトラックと接触し、規制車両との間に挟まれたもの。	170201	221	17	10 ～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_36.html